

N I E 実践報告書

尚志館高等学校

本校は、新聞に対する興味や関心を引き出すことを目的として、特進科・普通科を中心にコラム欄を毎朝読む活動を行っている。また、「N I E 研究会」を発足し、南日本新聞社「若い目」への投稿、夏休み NIE 学習会などを通して「読む・聞く・書く・伝える」能力を高める実践活動を行っている。

年間実践活動

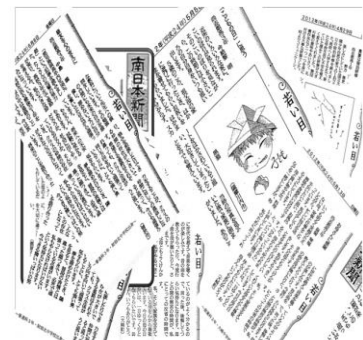
- (1) 朝のホームルームの時間に生徒がコラム欄を読む時間を設ける。
南日本(南風録)・朝日(天声人語)・毎日(余録)の3紙。

毎日のコラム欄の活用

- ①コラムをノートに貼る(印象に残ったコラムを自分で選択)
- ②要点部分や興味をもった内容に線を引く
- ③語句の意味を辞書で調べる
- ④感想を簡単にまとめる

- (2) NIE 研究会(部員 15 名)を中心に、南日本新聞「若い目」への投稿活動、文化祭での展示発表、夏休み NIE 学習会を実施する。

- ・南日本新聞「若い目」への投稿活動
H24 年 4 月からこれまで 48 名の生徒の作文が掲載された。(2 月末現在)
- ・夏休み実施の NIE 学習会
H24 年度:川内原子力発電所 見学
H25 年度:南日本新聞社 見学
H26 年度:MBC 南日本放送局 見学
H27 年度:鹿児島地方・家庭裁判所にて模擬裁判
海上自衛隊鹿屋航空基地資料館 見学
- ・文化祭での展示発表
H24 年度:東日本大震災 報道写真展示
H25 年度:南日本新聞「号外特集」展示
H26 年度:南日本新聞社 見学写真展示
H27 年度:MBC ラジオ「てげてげハイスクール」出演様子の展示



夏休みを利用した NIE 学習会

～鹿児島地方裁判所・家庭裁判所での見学の様子～

今年度は裁判所の判決の記事に注目してみました。悲しい事件や争いごとに関する多くの新聞記事を目にします。実際に裁判の現場を見学することで、刑事裁判や民事裁判の理解を深め、裁判所の役割について深く考える契機となりました。



裁判所の係りの方から裁判員制度やしるくみについて詳しく説明していただきました。



説明を聞く間も、法廷内にいるだけで、緊張感が伝わってきました。



裁判官が着用する「法服」を着させていただきました。生徒が裁判官、書記官、検察官、弁護人、被告人となり、はじめての模擬裁判を行い貴重な経験となりました。



- (3) 年間購読 6 紙を進路指導室のコーナーに設置し、自由に新聞を手にとれる環境を提供する。入試や面接に幅広く活用してもらうことをねらいとする。
A0・推薦入試や面接時期の 9 月～11 月に生徒の利用が集中



(4) NIE 授業実践

《地歴公民科で採用した記事例》

- ・「地方創生の先行事例に 志布志市人口減対策に力」
- ・「18 歳選挙権 大学生動く」
- ・「無戸籍 1300 万人中国解消へ 一人っ子政策の副作用」
- ・「園で習い事増加 私立幼稚園魅力づくりに一役」

など

《授業の流れ》

- ・「導入」部分で新聞を活用する。
- ・事前に、授業に関連のある記事、生徒の興味を引く記事を選ぶ。
- ・複数の新聞社、日付の異なる新聞を準備する。ただし、テーマは一つに絞る。

- ①学習班を作り、各自で新聞を読む。新聞の交換も自由。



- ②学習班で、思ったこと感じたことを自由に意見交換する。
文字の内容だけではなく写真についても考えさせる。



- ③一斉授業に入り、数名に発表させ、単元の本題につなげる。
さまざまな意見があってよいので、特定の答えは出さない。
新聞から得られた情報は、授業プリントに必ず記入させる。



(5) おわりに

初めは、新聞に興味がなかった生徒も、新聞を読むことの楽しさ、今まで知り得なかった知識が身につくことの満足感から、少しずつ新聞を読むようになった。

今年度は、特に南日本新聞の「ミライページ」の掲載(11月28日付)に生徒が積極的に動いた。生徒自ら取材し、記事を書くことで、構成の難しさや表現の多様さなどを実感していた。生徒は、「選挙権18歳以上」を特集として取り上げ、校内アンケートから現状をつかみ記事を書いた。

「若い目」の掲載は、親戚や知人はもちろん、小学校、中学校の恩師から連絡があったという生徒もいた。

今後は、学校で新聞を有効に活用し、生徒の興味を駆り立て、自ら新聞を手取るように工夫・改善をさらに重ねていきたい。



南日本新聞「ミライページ」の掲載(11月28日付)